

○ 委員長報告

2月定例本会議で報告された環境保健福祉委員長報告は、以下のとおりです。

令和7年2月定例会

環境保健福祉委員長報告

報告いたします。

当委員会に付託されました議案の審査結果は、お手元に配付されております委員会審査報告書のとおりでありまして、いずれも原案のとおり可決決定されました。

以下、審査の過程において論議された主な事項について、その概要を申し上げます。

まず第1点は、防災士活動強化促進事業についてであります。

このことについて一部の委員から、本事業の来年度の取組方針はどうかとただしたのであります。

これに対し理事者から、来年度は、防災士数全国1位という層の厚さに質の向上を掛け合わせ、地域防災力の一層の向上を目指すこととしている。層の厚さについては、地域における防災士の密度が重要なことから、今後は人口10万人当たりの防災士数全国1位の維持を目標に、推薦元別に開催していた講座を統合し、1回当たりの受講者数を増やして効率化を図る予定である。

また、質の向上については、生涯防災の観点から、新たに、若年層の育成を目的とした中高生向けの養成講座や訓練のほか、資格取得から年数が経過したシニア層向けのフォローアップ講座を開催するとともに、全防災士を対象に各種防災講義の映像配信を行い、防災士の自己研鑽を促す旨の答弁がありました。

第2点は、公衆衛生獣医師確保対策事業についてであります。

このことについて一部の委員から、本県の公衆衛生獣医師確保の現状と今後の取組みはどうかとただしたのであります。

これに対し理事者から、毎年全国で千名程度が獣医師免許を取得するが、約半数が小動物診療志望で、公務員獣医師志望者は100名程度となっている。こうした中、毎年全国の自治体で600名超の募集が行われており、公務員獣医師の人材不足は全国的な問題となっている。本県においても、過去5年間の採用状況は、募集42名に対し採用21名、うち公衆衛生獣医師は6名と極めて厳しい現状にある。

このため県では来年度、修学資金貸与制度の創設やインターンシップへの参加促進、さらには、岡山理科大学獣医学部が県内にある利点を生かし、同大学と連携した公衆衛生獣医師の魅力発信方法の検討等を行うなど、新たな確保対策に取り組んでいきたい旨の答弁がありました。

第3点は、愛媛県こども計画についてであります。

このことについて一部の委員から、計画策定にあたり実施したアンケートに寄せられた意見等を踏まえ、今後こども施策にどう取り組むのかとただしたのであります。

これに対し理事者から、アンケートでは、学校以外の居場所も、友達づくりや家族以外の大人との交流など、こどもたちに多様な変化をもたらす場所として機能していることが分かったほか、対話形式の聞き取りでは、将来の就職や県内で暮らすことなどに対して率直な意見を聴くことができた。

こども施策を進めるためには、こどもが安心して意見を言える機会を継続的に提供することが必要であり、来年度は、こどもまんなか懇談会の開催やこどもの意見を聴くファシリテーターの育成に取り組み、実現可能な意見については、子どもの愛顔応援ファンドやえひめ人口減少対策総合交付金など、県独自の制度の活用を検討していきたい旨の答弁がありました。

このほか、

- ・ゼロカーボン・フロントランナー企業育成支援
- ・石鎚国定公園指定70周年記念事業
- ・複合災害に対応した原子力防災対策
- ・若手看護職員の確保促進
- ・医療・福祉分野等における物価高騰対策

などについても、論議があったことを付言いたします。

最後に、請願について申し上げます。

当委員会に付託されました請願1件については、願意を満たすことができないとして、不採択と決定いたしました。

以上で報告を終わります。